

# にしむろアグリ情報



## ■うめの超省力枝梢管理技術と低樹高コンパクト整枝の導入推進による産地維持〔重点プロジェクト〕

西牟婁地域の基幹作物であるうめは、冬期の気象条件により作柄が大きく変動し、生産量や価格が不安定になっています。また、農業従事者の減少や高齢化が進んでおり、産地を維持していくためには、重労働かつ多くの労力を必要とする収穫やせん定等の管理作業を大幅に軽減させる技術の導入が必要です。

そこで、農業水産振興課では令和6年度～8年度の3カ年にかけて、①充電式電動バリカンによる春季摘心処理の導入推進及び夏季摘心の追加処理による秋季せん定作業の軽減効果について、実証ほを3ヶ所設置しています。②収穫やせん定等の管理作業軽減効果の啓発及び導入推進を図るため、成木のカットバック処理実証ほを4ヶ所、幼木のコンパクト整枝（ムカデ整枝）の実証ほを1ヶ所設置しています。③管理作業の大幅な軽減につなげる技術の普及を加速化させるために、技術普及指導者（JA 営農指導員等）を対象とした講習会の実施や、請負グループの育成に取り組んでいます。

これらの活動は、JA や市町等の関係機関と連携しながら行っており、得られた成果は少しずつでも着実に地域に広められるよう今後も現地での活動を進めて行く予定です。



春季摘心講習会（上富田町岡）

## ■施設栽培におけるスマート農業導入による生産性の向上

西牟婁地域では、農業者の高齢化や減少が進む中、作業の省力化や生産性の向上を図るため、スマート農業への関心が高まっています。特に施設園芸では、炭酸ガス施用装置や環境制御装置の導入推進し、高品質安定生産による所得の向上を図っています。

農業水産振興課では、野菜花きの普及指導計画において、関係機関と連携し、イチゴ栽培におけるスマート農業の推進や省力化技術の導入による野菜および花き産地の振興、新規生産者の確保と経営の安定化を図るためのモデル指標の作成や新規就農者の受入体制整備に関する支援活動を行っています。



現地研修会（田辺市三栖）

## ■SUN・燦紀南農業者の集いを開催

本集いは、西牟婁地方の農業者が、組織・年齢・生産部門などを越えて、地域農業の発展に向けた取組につなげることを目的として、農業士会・生活研究グループ・4Hクラブで構成する実行委員会が開催しています。今年度は、「西牟婁地方の宝に新しい息吹をあたえよう」をテーマとして、9月6日に県情報交流センターBig・uで実施し、約70名が出席しました。

株式会社藤桃庵代表取締役 藪本周也氏から「地域農産物を活用した6次産業化の取り組み」と題して6次産業化を始めた経緯や自分だけでなく、地域を盛り上げることが重要であると講演があり、その後、農業水産振興課から、「うめの超省力化枝梢管理技術と低樹高コンパクト整枝導入推進の取組」と「クビアカツヤカミキリの対策」について情報提供を行いました。



株式会社藤桃庵 藪本氏講演



重点プロジェクト情報提供（橘普及指導員）

## ■西牟婁地方リーダー研修会（防災・減災セミナー）を開催

西牟婁地方生活研究グループ連絡協議会では、昨年1月の能登半島地震や8月の南海トラフ地震臨時情報発表などにより、災害への備えについての関心が高まった事を機に、「防災」をテーマに、11月13日にリーダー研修会を開催し、会員27名が参加しました。

前半は、日本赤十字社和歌山県支部の「防災・減災セミナー」を活用し、「災害への備え」と「応急手当」について、受講しました。「災害への備え」では、地震や津波から命を守るための心構えや準備、避難生活での心構えや地域の助け合いの重要性等について講演いただきました。続いて、「応急手当」では、傷の手当や止血法など実演を交えて説明いただき、三角巾やレジ袋等を活用した腕の吊り方を実際に体験しました。

後半は、会員2名が講師となり、県リーダー研修会で習得した「簡易トイレの作り方」を伝授しました。

会員からは、「災害への備えを見直したい」「応急手当や簡易トイレづくりを实际体験できて楽しく学べた」などの声が聞かれました。



日赤防災・減災セミナー講師による講演



## ■クビアカツヤカミキリの早期発見に向けた取組

県北部でウメをはじめとするバラ科植物の特定外来生物のクビアカツヤカミキリによる被害が拡大しています。令和5年5月に県中部でも被害が確認されたことから警戒を強めています。本虫は繁殖能力が非常に高く、一度侵入した場合、全てを駆除することは難しいことから早期発見、早期対策が重要であります。

農業水産振興課では、チラシの配布や広報誌の掲載による啓発活動の他、関係機関と連携してウメ、スモモ、サクラの発生状況調査を実施しています。令和6年度は10月末時点で、延べ2,977本を調査しましたが、被害は確認されませんでした。紀南地域ではまだ成虫の侵入や被害は確認されていませんが、被害を抑えるためには早期発見・早期対策は必要不可欠です。本虫と疑われる成虫やフラス（木くずと幼虫の糞の混合物）を発見した場合は、当課又はJAにご連絡ください。



クビアカツヤカミキリ成虫



フラス



現地研修会（日高川町）

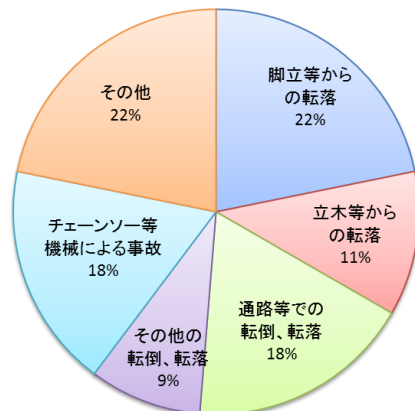
## ■農作業中の事故にご注意ください

県内の農作業事故の過半数は、脚立・樹木などからの墜落・転落や作業中の転倒となっており、うめとみかんの収穫期である6月、11月～12月が特に多い状況です。疲れの溜まりやすい農繁期は、少しの焦りや油断が事故につながることから、脚立やはしごの足場の安定性、変形の有無、留め具の使用等の確認をお願いします。

また、日頃から農業機械の点検整備や体調管理に気を配り農作業安全について、積極的に取り組んでいただきますよう、よろしくお願いします。



啓発用ステッカー



労災保険における  
休業補償対象事故内容の内訳（令和5年）

## ◎受賞者の紹介

### 令和6年度和歌山県農林水産業賞 受賞者の紹介

#### ■谷本 喜久氏（田辺市中芳養）

温州みかんから梅を中心とした複合経営に転換し、所得向上に繋げるとともに、園内作業道や梅干しハウスの整備など、効率よく働ける環境づくりを実践し、地域農業者の模範となっています。また、紀州田辺新規就農者育成協議会の委員として、後継者育成にも積極的に取り組み、梅産地のリーダーとして産地の発展に貢献しています。



#### ■スマート農業の推進

農作業の省力や軽作業化に向け、農業用ドローンやロボット草刈機、電動運搬車などの実演、体験会を昨年10月25日に田辺市中芳養の梅園で開催し、農業者やJA、市町等の関係者を含め約70名が出席しました。農業者からは「農作業が楽になると思う」、「実際に体験して、性能や価格を知ることができて良かった」、「思ったより操作がシンプルで分かりやすかった」などの意見があり、実演会の定期的な開催を望む声もありました。

県では、このような実演会の開催の他、施設園芸農業者向けのスマート農業実践塾の開催や働きやすい園地づくりや高品質果実の生産を推進するため、スマート農機や新技術の導入を支援する事業を実施しています。



スマート農機実演会（田辺市中芳養）

#### ○次世代につなぐ果樹産地づくり事業

事業主体：JA、出荷団体、協議会、農業者等

補助限度額：12,000千円

（流通施設又はハウスの高度化を含む場合は20,000千円）

留意事項：総事業費（税込）が5,000万円を超える機械整備については対象外

対策	ハード事業	補助率
超省力化栽培の推進	スマート農機の導入	3分の1以内

※スマート農機導入事業のみ記載

#### 西牟婁振興局 農林水産振興部 農業水産振興課

〒646-8580 和歌山県田辺市朝日ヶ丘23-1

TEL：0739-26-7941（栽培技術・経営相談、新規就農支援、食育推進など）

TEL：0739-22-1443（補助事業、鳥獣害対策・狩猟、農地貸借、農家民泊、養蜂など）

FAX：0739-26-7945

URL：<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/130600/130651/index/index.html>